

---

まだ・・・どうしても、ううん、もう・・・。

ユリ ナ・レシモーレ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

まだ・・・どうしても、ううん、もう・・・。

### 【Nコード】

N2407BA

### 【作者名】

ユリ ナ・レシモーレ

### 【あらすじ】

「もう・・・、戻れない？」

「戻れない・・・ううん、戻らない」

恋人から親友になった二人。

そんな二人の心境の変化をテーマにしたお話です。

## (前書き)

少し更新期間が空いてしまい、ごめんなさい。

短編としては、長くなってしまいました。最後まで読んでいただくと有り難いです！

私は、泣きながら言った。

9か月付き合った彼に。

「……元の……関係に、戻ろう……？」

彼は、私を抱きしめていた手の力を少し強めて、言った。

「俺がいなくなったら、誰が〇〇を守るの？」

俺は、まだ〇〇を守っていたいよ……」

初めて、彼が泣いた瞬間をみた。

でも、私が言ったことを取り消すことはできないと思った。

自分なりに考えて、何度も何度も考えて出した、1つの答え。

もう、戻ることはないと思っていた彼をぎゅっと抱きしめて言った。

「ありがとう、今まで本当にありがとう。」

初めて付き合った人が??で良かった」

“恋人”から“親友”になることを決意した私たちは、「またね」と言っただけで別れた。

次の日、??からメールが来た。

> 昨日、寝ちゃってごめん。

戻るなら、今すぐにでも戻りたいよ・・・。  
無理なんだろうけどね・・・。

> 戻ったら、昨日のことが全部台無しだよ。

私、今まで親友できたことなかったから、できて嬉しいけどね！

ありがとう。

これからは親友としてよろしくね！

> 分かった。

もういいよ。。。

こちらこそ、親友としてよろしくな！

「もういいよ」

その一言が、胸に突き刺さって泣いた。

「自分からフツたのに、あんたが泣くんじゃないの！」  
母に、そう怒られた。

自分が、どれだけのことをしたのか改めて実感した。  
??がいなくても、大丈夫だって・・・、独りでも平気だって思っ  
てたのに。

そんな感情は、一時のものだった。

別れを切り出してから次の日である今日。

??にもう1度メールを送った。

>もう1度だけ悪あがきをさせて下さい。  
許してもらえるのなら、もう1度彼女にして下さい。  
どうしても、戻りたいです。

>真面目に言ってるの？

>嘘ついて??を困らせたいと思う？

>もし戻れるのなら、もう1度彼氏にして下さい！

こうして、別れて1日で元の関係に戻った。  
バカなカップルだと思う。

いや、この時はそう思ってた。

それから、数週間経ったある日。

「あなたは、??よりも男子の友達の方に気があると思うよ。  
あなたを見ててそう思う。」

恋より、友情って感じがする。

中途半端な気持ちで、??を苦しめるし、そんなあなたと付き合い合  
ってる??がみじめに思う」

母の一言は、大きく心に響いた。

今、私が本当に一緒にいたいのは……。  
本当に想ってる人は誰なのか……。

考えた末に、1つの答えにたどり着いた。  
見つけたくなかった思いも少しはあったが、見つけてたどり着いて

しまった自分がいた。

そして、彼に逢った時に告げた。

「私には、やっぱりまだ恋愛は無理だったみたい。  
まだ、友情を大切にしたい。

だから、やっぱり……。

親友になろう。

最後まで自分勝手に、本当にごめん」

そう言った。

彼は絶対に怒ると思った。

それが、こんな私に呆れると思った。

でも、彼はこう言った。

「もう、本当に俺が〇〇の彼氏に戻ることはできない？

何をしてても、どんなことをしても、〇〇の気持ちは俺に向かない？

もう……、戻れない？」

だから、私は言った。

「戻れない……ううん、戻らない。

私がここでまた戻ったら、もっと??を傷つける。  
もっと、もっと苦しめる。

だから・・・、もう戻らない」

言った瞬間、涙がこみ上げた。

でも、大泣きするのは??に失礼だと思って、こらえた。

2度も傷つけた、今まで愛した人に・・・。

でも、堪えられなくなった涙が、一筋、頬を伝った。

そんな涙を彼はすくい上げて、私に向かって言った。

「うん、分かった。

○○が思う道を進めばいいよ。

俺は、いつまでも応援するからさ。

ほんとにありがとうな」

沢山迷惑かけたのは、私の方なのに。

お礼を言わなければいけないのは、私の方。

そう思うのに、上手く声が出せなかった。

そんな、うつむいていた私の前に、右手が差し出された。少し顔をあげた私に彼は言った。

「握手してくれる・・・？」

親友としてのけじめをつけたいんだ」

そう言われた瞬間、私の中の抱えていた何かが、吹き飛んだ気がした。

私は、彼の手を握って、彼の顔を見た。

「こちらこそ、今までほんとにありがとう。

そして、よろしくね親友さん」

彼が好きになってくれた笑顔で、彼に向き合った。

彼も同じように、私が好きになった優しい笑顔で向き合ってくれた。

彼の恋物語は、ラブ・ストーリーここで終幕。

でも、お互いのことを「親友」として大切に思う気持ちは、続いている。  
もしかしたら、お互いが幸せになることを信じてる、「信友」かもしれない。

そして、私達は別々の恋物語ラブ・ストーリーを作っていく。  
恋をする相手も、デートコースも、何もかもが違う。

しかし、「しんゆう」としての絆があるのも、初めて恋をした相手だということも、紛れもない事実なのは確かである。

事実を心に残し、私達は個々の道へと歩んで行く。

(後書き)

これからも頑張っていくしますので、よろしくお願いします。

感想等も、お待ちしております。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2407ba/>

---

まだ・・・どうしても、ううん、もう・・・。

2012年1月6日01時48分発行